(1)ひきこもり地域支援センターについて

運営体制 1/2

1. 設置年月 平成28年2月1日
2. 対象者 ひきこもり状態にある方及びその家族等
3. 設置場所 千葉市こころの健康センター内
(美浜区高浜2-1-16)
4. 開所日 週5日(月～金、祝日・年末年始を除く)
9時から17時
5. 業務内容 電話、来所等による相談、助言、家庭訪問等の
アウトリーチ型支援

運営体制 2/2

6. 運営形態 委託（特定非営利活動法人ユニバーサル就労ネットワークちば）

7. 支援体制

ア ひきこもり支援員7人による相談・支援の実施

イ ケース検討や支援方針の協議等を行うため、支援員及びこころの健康センター職員により構成する会議を定期的
に開催

ウ 関係機関とのネットワーク構築のため、千葉市地域自立支援協議会や千葉市子ども・若者支援協議会に参加

相談実績

- ・昨年度に引き続きメールによる相談が増加傾向
- ・合計では昨年度と同程度

相談件数（延べ）		R4年度	R5年度	R6年度 12月末現在
	電話	813	1,010	634
来所	センター	495	822	719
	出張所・出張相談	52	31	51
訪問	自宅	160	162	141
	自宅以外	66	77	43
	メール	40	133	131
	その他	113	201	85
	計	1,739	2,436	1,804

相談実績(令和6年度12月末現在)

1 相談者の続柄 (複数回答)

	本人	家族	その他	合計
相談者の続柄	902	838	290	2,030

2 初回相談における対象者の内訳

	男性	女性	不明	合計
性別	84	48	2	134

	19歳 まで	20歳 代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	不明	合計
年齢層別	16	32	18	29	20	19	134

居場所活動実績(令和6年度12月末現在)

ひきこもり当事者の社会参加と自立を目指すための場として、ひきこもり地域支援センターにて居場所活動を実施している。

ア 「ふらっと」(月4回)

絵画・工作・手芸・調理・散歩・軽スポーツなどのプログラムを実施。

イ 「若者のつどい」(月1回) R5年度～

若者を対象に同世代交流の場を提供。ゲームやスポーツを実施。

ウ 「1日ふらっと」(隔月1回) R6年度～

プログラムがなく自由に過ごせる居場所。漫画やゲームなどを用意。

	R4年度	R5年度	R6年度 12月末現在
開催回数	44	34	46
参加延人数	102	93	105

ひきこもりサポーターの養成と派遣

地域に潜在するひきこもりの方を早期に発見し、支援につなぐ役割を担う「ひきこもりサポーター」を養成し、ひきこもり地域支援センターにおける居場所活動での支援に繋げている。

(令和6年度 **12月末現在**)

ひきこもりサポーター 登録者数	居場所活動へのひきこもりサポーターの 参加延人数
47人	32人

普及啓発

1 ひきこもりに関する講演会の開催（令和6年度）

	1回目	2回目
タイトル	私のひきこもり体験談と親が当事者にできること	ひきこもりと医療 精神科医の視点から
講師	一般社団法人ひきこもりUX会議 理事 石崎 森人氏	こころの健康センター 所長 野々村 司氏
日時	令和6年6月7日（金）	令和6年12月18日（水）
場所	こころの健康センター	こころの健康センター
参加者数	85人	83人

2 ひきこもり家族のつどい（令和6年度 **12月末現在**）

ひきこもりの家族同士が、グループで話す事で思いや悩みを共有し、家族が孤立せずに安心できるよう、今できる事や対応などを一緒に考える場。

（偶数月の最終金曜日に開催 計4回・延べ16人参加）

今後の方針

- 令和6年度は、新たに「1日ふらっと」や「メタバースを活用した面談」の試行を実施しているが、今後も利用者のニーズに合った支援を模索し、積極的に実施していく。
- 千葉市のひきこもりの推計人数（R6年9月末現在：12,600人）を考慮すると、相談に繋がっていないケースが多く存在している可能性があるため、様々な機会を捉えて、広くひきこもり地域支援センターを周知していく。